

平成17年度 試験研究（事後）評価整理表

整理表3

試験研究機関名 福島県ハイテクプラザ

所管グループ 産業創出グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	新事業の創出	地域活性化共同研究事業	次世代プラスチックの製造技術の開発	プラスチック中に少量のクレイを分散させた高機能性ポリマー/ナノボジット材料を開発し、ナノボジットに関する混練技術・ナノ構造評価技術を確認する。	各種前処理を行いクレイの層間隔を大きくしてポリプロピレン樹脂を混練し、クレイの分散と層間隔の大きさを確認しながら成形し、機械特性、動的粘弾性等の測定・評価を行う。	14	16	B	研究の目標は概ね達成されたが、技術移転で課題が残る。	概ね研究目標は達成されたが、経年による性能低下などを評価しながら実用化を目指す必要があると思われる。
2	社会環境対応型の新技術開発	地域活性化共同研究事業	亜鉛めっきのクロムフリー化成処理技術	従来行われている亜鉛めっきの化成処理法であるクロメート処理に替わり、環境を考慮した同等の性能を持った全く新しいタンニン類を利用した処理技術を開発する。	タンニン類を利用したクロムフリー化成処理法は室内環境での使用に限定されているため、シアン浴への応用、耐食性・耐候性の更なる向上を目的とした厚膜化、複合化に取り組み。	14	16	A	研究の目標を十分達成し、技術移転も間近である。	人及び環境に優しい技術開発として研究目標を達成した。実用化を期待したい。
3	新事業の創出	地域活性化共同研究事業	有機赤外線センサーを利用したマイクロデバイスの開発	・有機赤外線素子を用いて、安価で高性能な赤外線画像素子の開発を行う。さらに、増幅駆動回路の開発により、少ない画素数で動作する熱画像装置の試作を行う。	電気機能を有する有機薄膜をマイクロデバイスに応用することにより、安価で高機能なデバイスを開発する。	14	16	B	中小企業でも活用可能な技術を確認したことは評価できる。企業による応用製品の事業化が期待される。	従来品との費用対効果と応用予定製品を具体的に示すべきである。
4	新事業の創出	地域活性化共同研究事業	スーパー繊維を活用した産業資材の開発	・産業資材分野での炭素繊維の活用を図るため、現在の繊維強化複合材料の欠点を補う炭素繊維を用いた産業資材の開発とその加工技術を確認する。	炭素繊維を用いた織物製織技術を開発し、三次元織物の試作を行った。次に炭素繊維織物を所定の厚さまで積層し、積層材料結合機で地糸切れのない三次元織物を形成する。	14	16	B	新しい素材を完成したことは評価できる。具体的な用途の事例を示すことが望ましい。	複合材料の3次元織物技術を開発したが、今後その性能をアピールする製品を企業等と連携しながら開発し、さらに広めていく必要がある。
5	地域特性を活かした技術開発	ニーズ対応型研究開発事業	福島県産ブランド清酒の開発	・オリジナル酒造好適米「夢の香」を原料とし、かつ時代のニーズにあった酒質の製造手法を確認することで福島県ブランドとしても販売できる清酒を開発、販売すること。	・濃厚で味わいのある清酒を作成するために山廃?用優良微生物群から優良スターターを検索し、得られた安定的に優良な?を使い試験醸造して製造の際の条件や留意点を確立する。	14	16	A	福島ブランドの確立は県の喫緊の重要課題である。清酒におけるブランド化につながる本研究の成果は高く評価できる。	「福島に あり」と知られるブランド清酒が、市場に現れ注目されることを期待します。
6	地域特性を活かした技術開発	ニーズ対応型研究開発事業	伝統産業における製造技術の開発と新商品の開発 3.大塚相馬焼きの素地強度向上に関する研究(H14-16)	・各種材料を大塚相馬焼の素地(きじ)・釉薬に添加してその強度向上を図るとともに、その強化素材を利用して割烹用食器をデザイン開発し、販売量の拡大を目指す。	・現在使用されている大塚坯土ならびに各種添加剤について元素分析を行い、素地強度向上のため配合組成を検討し、釉薬の焼成による呈色や貫入の発現などから配合組成を確立する。	14	16	A	福島ブランドにつながる成果であり、商品化に向けた活動も活発であり、評価できる。	購買層はどの辺りにあるのか？。給食用の食器などに使えれば、子供達の感性的な活版になるが。